

大阪市立鯨江東小学校 平成30年度 運営に関する計画・中間自己評価

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において全教科で課題がみられる。特に、全教科で2極化の傾向が認められ、さらなる「わかる授業」づくりが急務である。
- 全国学力・学習状況調査の意識調査では各設問に対して「当てはまる」と積極的な回答をしている児童の割合の低い項目が多く、学習に対する自信のなさがうかがえられる。
- 学習規律や家庭学習の習慣は身についてきている。しかし、家庭での生活は、学習時間・テレビ等でゲームの両項目で、多くの時間を使っている児童が多い。過ごし方が二つに分かれているように思われる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合的な運動能力は良好である。ただ、長座体前屈・ソフトボール投げ・50m走において課題がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における運動に関する意識は、男女ともに否定的な回答が目立つ。運動することが嫌い・苦手と思っている児童が多いのも課題である。
- いじめや不登校の問題において、解決すべき課題はあるが、保護者や関係機関と連携して取り組んでいる。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成33年度の小学校経年調査「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 平成32年度末の学校生活アンケートにおける「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成33年度の小学校経年調査における正答率4割以下の児童の割合を、いずれの学年も平成28年度より5ポイント減少させる。
- 平成33年度の全国体力・運動習慣調査において、特に課題である「長座退屈前」「ソフトボール投げ」の平均記録を、平成28年度の記録より向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を85%以上にする。（H29年度経年調査では94.8%）
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（H28年度 対児童0% 対教師0%）
- ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を、前年度より減少させる。（H29年度 2名 0.5%）

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を80%以上にする。（H29年度 経年調査 85.7%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
(29年4科標準化得点 3年97.3 4年101.5 5年97.3 6年103.8)
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
(29年4科 3年25% 4年32.6% 5年44% 6年27%)
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の記録を前年度より増加させる。（29年 75.1%）
- ・全国体力・運動能力習慣調査において、体力合計点を前年度より1ポイント増加させる。（29年 男子50.9 女子55.5）

学校園の年間目標

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、課題である長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。
(29年 男子：長31.7 ソ21.6 女子：長37.9 ソ14.1)

3 本年度の自己評価結果の総括

平成 30 年度 運営に関する計画・中間自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95 %以上にする。 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 85 %以上にする。（29 年度 経年調査では 94.8 %） 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（29 年度 対児童 0% 対教師 0%） 年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を、前年度より減少させる。（29 年度 2 名 0.5%） <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を 80 %以上にする。（29 年度 経年調査 85.7%） 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>児童の実態を把握し、いじめなどの早期発見に努め、その解消に取り組む。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>月 1 回の生活指導部会において、いじめなどの事案について話し合い、その解決に向けた学校環境づくりに取り組む。</p>	B
<p>取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>「学校のきまり・規則」を常に児童が意識し、実践するように日々指導を行う。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>校内アンケートを実施し、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 80 %以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【施策 1 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自尊心の向上に取り組むと共に、互いに思いやる心を育て、暴力行為を行う児童の</p>	B

<p>減少に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>児童に対する学校生活アンケートの「友だちとなかよくできていますか」の項目について「はい・どちらかといえばできている」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>不登校児童対策において、保護者や関係機関と連携した取り組みを進め、不登校児童の割合を、前年度より減少させる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の状況を適切に把握し、保護者や関係機関と連携して状況に応じた多様な取組みを行う。 ○児童の状況把握をするための具体的な施策を図る。 	B
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>異学年によるグループ活動や行事を通して、お互いの気持ちの交流を図り、協力することの大切さを学ばせる。</p>	B
<p>指標</p> <p>児童に対する学校生活アンケートの「学校生活は楽しいですか」の項目について、「はい・どちらかといえば楽しい」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 毎月の生活指導部会により、児童の現状を把握し、児童理解に努めている。</p> <p>② アンケートの結果は97.3%となった。しかし、休み時間になると廊下、階段を走っている児童がまだ多い。</p> <p>③ アンケートの結果は98.3%となった。小さなトラブルはあるものの、子どもたち自身で話し合ったり、教師に報告したりして、解決しようとしている。</p> <p>④ 家庭と連絡を取り合い、児童の家庭環境や校内での生活状況を把握し、保護者や関係機関と連携をとっている。</p> <p>⑤ アンケートの結果は95.9%となった。集会活動や、異学年交流を図り、協力することの大切さが育っている。</p>	
<p>後期への改善点</p>	
<p>① 今後も生活指導部会での話し合いを活かし、学校全体で取り組む体制を整えていく。</p> <p>② 強調週間だけでなく、一貫して教職員が児童への声かけをしていく。</p> <p>③ 今後も一人ひとりの良いところを見つけ、互いを思いやる心を育てるなど、仲間づくりを意識していく。</p> <p>④ 家庭との連絡を密にとる。今後は、登校を促す具体的な取組みについても考えていく。</p> <p>⑤ たてわり班活動などをさらに充実させていくようとする。</p>	

平成 30 年度 運営に関する計画・中間自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (29年 4科標準化得点 3年 97.3 4年 101.5 5年 97.3 6年 103.8) ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 (29年 4科 3年 25% 4年 32.6% 5年 44% 6年 27%) ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の記録を前年度より増加させる。 (29年 75.1%) ・全国体力・運動能力習慣調査において、体力合計点を前年度より1ポイント増加させる。(29年 男子 50.9 女子 55.5) 	B
学校園の年間目標 <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力習慣調査において、課題である長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。 (29年 男子：長 31.7 ゾ 21.6 女子：長 37.9 ゾ 14.1) ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を70%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 教員の指導力向上と校内研修の支援の充実に取り組む。 研究教科「算数」を重点に、算数指導の充実と進化に取り組む。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○各教員は年間1回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図る。 ○算数の授業における「授業はよくわかりましたか」のアンケート項目について、「よくわかった・わかった」と答える児童の割合を90%以上にする。	B
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○子どもの体力・運動能力向上のための取組みの充実を図る。 ○年間を通して柔軟性や投げる力の向上にむけた取り組みを行う。 (カリキュラム改革関連)	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育の授業や運動遊びで継続的な取り組みを全学年で行う。 (ストレッチ・縄跳び・水泳・ドッヂボール等) ○ 課題のある柔軟性を高めるための取組みを全学年で行う。 (体育科の準備体操に含む) ○ 1・2学期に「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の記録をとり、8割以上の児童が1学期の記録を上回るようにする。 	
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習に努める。 	(カリキュラム改革関連)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究教科の算数科を中心に、学習課題を明確にした問題解決的な学習を行う。 ○ 学習の中に、「自分で調べ考える」「小集団で話し合う」などの場を設定し、主体的に対話的な学びを推進する。 ○ 算数の授業における「自分の考えをもつことができましたか」のアンケート項目について、「もつことができた・できた」と答える児童の割合を80パーセント以上にする。 	B
<p>取組内容④【施策7 健康や体力保持を増進する力の育成】</p> <p>保健委員による月に一度の清潔調べや学期に一度の健康週間の実施、さらには「保健だより」などの活用を通して、ハンカチやティッシュを携帯し、手洗い・うがいをする習慣が身につくように指導する。</p>	(カリキュラム改革関連)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康週間がんばりカードによる実態調査で、手洗いをしていると回答する児童の割合を年度末には80%以上にする。 ○ 保健委員による月1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も80%以上にする 	B
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力保持を増進する力の育成】</p> <p>食事の大切さに关心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。</p>	(カリキュラム改革関連)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭による授業を各学年、年2回行う。 ○ 給食週間がんばりカードで「残さず食べた」と回答する児童の割合を80%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 計画的に研究授業を行い、校内研修・全員授業についても順次行っており、指導力の向上に努めている。算数の授業における「授業は分かりましたか」のアンケート項目について肯定的な回答をする児童の割合が90%以上になっている。</p> <p>② 2学期運動会後に測定した長座体前屈の記録は、82%のクラスが1学期の記録を上回ることができた。</p> <p>③ 研究授業を中心に、課題を明確にした問題解決型授業が展開されている。学習の中で、2人から6人での話し合い活動が取り入れられている。「自分の考えを持つことができましたか」のアンケートでは、肯定的な回答が86.3パーセントと高い数値が得られ</p>	

ている。

- ④ 健康週間がんばりカードでは、手洗いについてのすべての項目で数値目標を達成している。清潔調べでは、毎月行うことでハンカチ・ティッシュをもってくる意識は高まっている。
- ⑤ 栄養教諭による栄養指導は、2学期中に全学年実施する計画が立てられている。栄養指導後は、特に食への関心が高まっており、完食しようとする意識が高い。

後期への改善点

- ① 全員授業は、各教員の実施日を1週間前に周知するなどして、参観しやすい体制を取りながら、より計画的に進めていくようとする。
- ② 今後ソフトボール投げの記録を向上させるための活動に取り組む予定である。
- ③ 算数科における自己解決場面（ＩＣＴの活用、教具の充実、ヒントカード作成・ヒントコーナーの設置など）の充実を図る。「自分の考えを持つことができましたか」の児童アンケートでは、肯定的な回答が全体では80パーセントを超えているが、一部の学級で80パーセントを下回っているので、継続的に指導を進めていく。
- ④ ハンカチ・ティッシュを携帯する意識をさらに高めるために、継続的に清潔調べを行い、学級での声掛けや保健だよりなどで保護者に啓発していく。
- ⑤ 給食週間でのがんばりカードの活用により、さらに食への関心を高めていく。